

養成校における伝承遊びの実践と検討

黒 岩 英 子

(西 南 女 学 院 短 期 大 学)

はじめに

保育者をめざしている学生たちに、遊びをあまり知らない・遊びの楽しさを味わったことがあるのであろうか等、感想を抱くようになって数年になる。

はたして、学生たちは子ども時代どのような遊びをどのように遊んでいたのでしょうか。

今回この疑問を解くために、学生に子どもの頃の遊びを思い出させ、互いに伝達しあうことによって、学生の実態を知ることにした。伝達は室内で行ったため外遊びは説明に終わった。しかし面白いからぜひ一緒に遊びたいという要望が出たため、翌年グラウンドで実施した。伝達記録とビデオおよびアンケートとレポートを通して、学生の実態を報告し、養成校における伝承遊びの実践の意味を検討したい。

方法

期日と場所 1996年11月 リズム室

1997年 5月 グラウンド

対象 1996年度本学保育科入学生45人

子ども時代の居住環境(転居は複数回答)

自然に恵まれている 15人

住宅地 11人

自然も住宅も適当にある 37人

手続き 遊びの実践記録をもとに分析する。

実践経過

1) 保育内容の研究 表現”において、10数人のグループを作り、子どもの頃に遊んだ遊びを一人が最低ひとつずつ伝達しあった。

表1 伝達した遊び (数字は人数を表す)

a 1本橋ちよちよ - - - 3	m ジャンケンポン(しし) 3
b 蒸茶つば茶つば - - - 3	n グリーンピストン - - - 2
c 上がり目下がり目 - - - 1	o みかんの花(咲く丘) - - - 2
d おちやらかい - - - 3	p アルプス一尺 - - - 2
e お寺のおしよさん - - - 2	q 権べさんの赤ちゃん - - - 2
f ずいずいづころばし - - 5	r 山小屋軒 - - - 2
g もちつき(3月3日) - - - 2	s 島めぐり(世界一周) - - - 1
h 花いちもんめ - - - 3	t チクタクバンゲーム - - - 1
i かごめかごめ - - - 3	u あんまーちうち(手つなぎ鬼) 1
j あぶくたつた - - - 1	v 郵便屋さん - - - 3
k だるまさんが転んだ - - 1	w 大波小波 - - - 1
l どれにしょうかな - - - 2	(アルファベットは遊びにつけた符号を示す)

表2 伝達した遊びの記録

遊びに関すること	—28—(内訳)
地域により、学校により、地区によって歌う言葉が違う。— — — — — f・h・h・i・l・m	
歌は同じだが手の動かし方が違う。二通りある。途中まで同じ。— — — — — c・o・p	
遊び方はほとんど同じ。— — — — — f・f	
遊び方が少し異なる。遊び方がいくつかある。終わり方が異なる。— — — — — e・h・h・i・l・v・w	
一度に多勢で楽しみ、道具もいらず、いつでも遊ぶことができる。— — — — — k・t	
単なる手合わせと思っていたが、音楽に親しみ、リズムの楽しさを味わえる。— — — — — d	
手遊び歌だが、ストーリーがあるから面白さが味わえる。— — — — — r	
楽しくあそべて友だちの輪が広がる。緊張感があるので大人も楽しい。— — — — — f・i・t・v	
簡単である。音に合わせて遊ぶのでリズム感が身につく、体と体の触れ合いもあり良い。— — — — — c・f	
グループ内の学生の反応に関すること	—28—(内訳)
地域により知っている人とまったく知らない人がいた。— — — — — a・g	
皆知っていると思っていたのに、知らない人がいて驚いた。— — — — — a・n・s	
皆よく知っていた。笑ったりして、結構たのしんでやってくれた。— — — — — c・d・e・f・i・n・p・v	
北九州市内でも歌や動作が違って驚いていた。音程が異なり面白かった。— — — — — a・b・l・w	
皆小さい頃やっていたようで、比較的早く遊び方を覚えてくれた。— — — — — c・q	
小さい頃していなかった人は手の動きを覚えるのが難しかった。— — — — — b・o	
知られていない手遊び歌であった。初めての人がばかり。— — — — — r・t	
メロディーが難しいためなかなか覚えられない。回数がふえていくのが理解できない。— — — — — r・t	
かわい遊びといった。途中で失敗しても楽しそうに笑い、遊びにはまった。— — — — — r・t	
名称が変わっているの、皆びっくりしていた。— — — — — u	
感想(楽しかった、懐かしかった、いろいろ覚えてよかった、認め合う必要、感情の追体験など)	28
伝達の仕方に関すること(音を取ってから、説明の仕方が正しい、ゆっくり、観の用意など)	5
今後の取り組みに関すること(レポートを広げる、伝承したい、変化をつける、役立てるなど)	13

みかんの花咲く丘・ジャンケンポン・グリーンピストンの三つは、同じ手合わせの人が見つかること、しだいにスピードをあげて遊ぶことができる高度な技能を有した学生がいた。

2) 指導法の研究の授業において、グラウンドで伝承遊びを実施した。遊びは、ごむ跳び、ひまわり(島めぐり・世界一周)、ろくむし、Sケン、十字鬼、靴とり警泥、影ふみ、石けり、花いちもんめである。初め筆者がSの字およびひまわりと石けりの図を描き、後者の二つの遊び方を教えた。各自がグループで遊び始めてからビデオに撮影した。しかし石けりは筆者の紹介を見るだけで、誰も遊ばなかった。

ビデオから遊びを概括すると、ごむ跳びは小さい頃得意であったSが、肩の高さを跳んでいる。2度目で成功。次に耳を数回しかも跳びかたも変えて跳んだが

失敗に終わった。多くの学生が見守っていた。

ひまわりは二つのグループが遊んだ。押しあう・引っぱりあう・相手をかわしながらすばやく走る・踏ん張る・バランスをとる・チームで力をあわせるなどして楽しんでいた。ろくむしはボールは使わないで、Sケンの宝はごむを使ってハーハーいいながら遊んでいた。十字鬼と靴とりは同じ図を使っていた。しかしケンケンをしたのは、片方の靴を取られた人のみであった。花いちもんめは、「負けて悔しい～～」と言う組のほうが大声で叫び、本気で気持ちを表現していた。(警泥と影踏みは、録画をすることができなかった)

レポートの内容を項目で区切り、それを分類すると次のようになる。

a、実践中に関すること

幼い頃を思い出し、懐かしく思わずはしゃいだ。
面白くて遊びに熱中し、走り回って少し疲れた。
汗をかき、すがすがしくて気持ちがよく、子どもの
頃楽しい遊びをしていたのだと改めて感心した。
少し遊びを忘れていたが、他の遊びも覚えた。
身体が重くなっていたなど。

b、外遊びに関すること

広々していて、太陽の下で遊ぶのは身体に良い。
線は石灰がなくても棒や足で書けば良い。
スリルがあるなど。

c、伝承遊びに関すること

人と場所さえあれば手軽に遊ぶことができる。
身体と頭をおもいっきり使い、楽しくてあきない。
ルールも比較的簡単だから親子で一緒に遊べる。
いろいろの遊び方ができるなど。

d、遊びの長所について

親子の交わりに良い。
友だち同士の仲が深まる。
面白いことを発見したり、発展させることができる。
笑顔で友だちと気持ちを通わせることができる。
言葉の発達を促す。
社会性を養う。
動きが活発になるなど。

e、地域による差異について

ジャンケンの言い方や友だちの誘い方が異なる。
方言が歌や言葉の中に入っている。
土地特有の味がでるから楽しく親しみやすい。
地域は同じでも小学校が違うだけで異なる。
地方によって異なるが、共通の部分があって面白い
歌詞や音程が違うのを、教えあった。
人の遊びを否定するのはおかしい。

マスコミも発達していなかったのに、受け継がれていて不思議である。

方言をいれたり、誤ったりしながらも昔の子どもはよく遊んだのだらうなど。

f、今後のことについて

むかしの遊びも子どもに伝えていくことが大切。
思い出として残すことのできる遊び歌であるように。
子どもの頃からしっかり外で遊ぶ子どもにしたい。
元気に走り回って子どもと楽しめる遊びをしたい。
自分が遊んだ遊びを子どもと一緒にしたいなど。

3) アンケート調査の結果より(抜粋)

a、子どもの頃の遊びについて (最多数のみ)			
子どもの頃よく遊んだか：	はい	43人	
いつも何人で遊んだか：	4～5人	33人	
いつ頃まで遊んだか：	小学5～6年	38人	
もっともよく遊んだ時期：	小学1～2年	25人	
b、子どもの頃遊んだ遊び (戸外の遊びから)			
かくれんぼ	45人	つき鬼	39人
花いちもんめ	45人	鬼	33人
かごめかごめ	45人	警泥	33人
綱引き	43人	ごんぎ	33人
ドッチボール	43人	バレーボール	32人
だるまさんか～	41人	バスケットボール	30人
		ひまわり	10人

c、印象に残っている遊び

海・山・川・木・田んぼ・薄の原では生き物捕まえ、探検ごっこ、基地作り、わら投げ、わら滑り、宝物埋めなどである。春はピーピー豆、おしろい花で遊び、秋はどんぐり拾い、冬は雪合戦・そり滑りなど、自然の中での遊びを33人があげている。しかも、春の匂いが忘れられない、恐々していた、落ちて痛かった、びやっとした感じ、ぬるぬるした感じ、わらががゆかったなど感覚や感情を伴っている。

空き地・運動場・公園・団地の屋上では、アンケートの戸外遊びと共通であるが、隠れていて寝てしまった、懐中電灯を持ち出し夜遅くまで、遊び過ぎて遅刻した、一人でけいこをした、協力することを学んだなど遊びに夢中になっていたことが分かる。

検討とまとめ

本学の学生は、子ども時代には筆者が予想していた以上に遊びこんでいたことが分かった。

保育者養成校において伝承遊びを実践することは、学生が子どもの頃に経験し内在している事柄を、再確認させることにつながると考えられる。また、それらの遊びは現代の子どもにとっても有用といえる。

注1)久富さよ「保育者養成における「表現音楽」の指導」大学音楽教育学会発表資料を参考 1997